

令和5年度「地域学校協働本部事業」 檜葉町地域学校協働センターの取組事例

「コミスクの専門部会との連動で『こどもまんなか』の活動を推進」(福島県檜葉町)

取組の概要や経緯

地域コミュニティを復興・創生させるため、令和4年度より地域学校協働センターを設置して地域学校協働活動の一層の推進を図り、地域・家庭・学校のニーズに応じた多様な活動を展開してきた。令和5年度からは、子どもの自己実現の機会とするため、地域と協働した探究活動の機会も設けたほか、家庭教育支援活動や、防災教育・放射線教育に関する活動も複数展開し、教育的機能の充実を図っている。



内容

- 週に4日、地域住民を講師とした放課後児童クラブとの校内交流型の放課後子供教室を展開
- こども園・小中学校において地域との協働による教育活動・連携授業の実施
 - ・地域の伝統文化や産業、戦争体験、震災学習や放射線教育など、指導案や教材も作成
- 地域をフィールドにした活動や地域からのオーダーに基づく土曜学習の展開
- 小学校における福島大学生による学習支援活動
- 地域企業や団体と連携した社会教育分野における職業体験や起業体験などのキャリア教育の展開



ポイント

- センターが事務局としてコミスクを運営し、熟議と活動を一体的に推進している。
- 令和5年度からは部会の意見を基に教育トークを開催し、子どもたちと教育委員会や学校運営協議委員、地域住民が教育について語り合う機会を設けている。
- 多様な活動をセンターが管轄することで、学校や地域の幅広いニーズやオーダーに沿った活動が展開しており、地域のネットワーク化が進んでいる。

今後の方向性

- 「こどもまんなか宣言」に基づき、子どもの意見表明、自己選択・自己決定できる機会をさらに増やし、子どもがやりたいことをできる自己実現の場としての役割を強化する。
- 不登校傾向の子どもが保健室登校の代わりとして通学するケースが出ており、そうした子どもの受け皿としての居場所の機能を高める。
- 地域との連携・協働による防災や放射線に関する体験活動の機会を充実させ、学校教育との相乗効果を図る。

成果

- 異学年の友だちが増えた子60% 地域住民の知り合いが増えた子53% 地域住民の生きがいにもなる。
- 登校意欲が高まった子80%
- 子どもの成長や保護者の変容を感じた保護者7割
- 地域におけるキャリア形成に大きな効果のあった実践として、文科省・経産省から優秀賞を受賞。

